

Salon

Vol.93 2014年11月 冬号



ホール2Fホワイエ壁面 ポール・ギアマン作「ダンサー」

CONTENTS

- 01 Prime Interview — カルミナ四重奏団
- 03 Phoenix Presents — 2015年度ティータムコンサート発売
- 06 Pick Up
- 07 Essay de say — 「あの青空へ」 岩谷祐之

弦楽四重奏版モーツァルト「レクイエム」 2015年11月 ティータイム公演 カルミナ四重奏団ヴィオラ奏者 ウェンディ・チャンプニーさん



©Lukas Beck

金曜の午後2時、美味しいお菓子や飲み物と共に、上質でバラエティに富んだ音楽をお楽しみいただくティータイムコンサート。来年2015年度は7回のラインナップをご用意しました。(3、4ページをご覧ください。)ザ・フェニックスホールは「室内楽の殿堂」を標榜し、その「代表選手」ともいえる弦楽四重奏に力を入れています。来年度は11月、スイスのチューリヒに拠点を置く名門「カルミナ四重奏団」が登場します。結成から30年。ヨーロッパを代表する実力派として世界に知られています。今回のプログラム(2ページ右下参照)では、モーツァルトの遺作「レクイエム」を演奏します。本来はオーケストラと独唱、合唱のための作品ですが、これを弦楽四重奏で演奏するユニークな試み。創設の経緯から弦楽四重奏の営みの妙、そしてこの作品・演奏などについて、ヴィオラのウェンディ・チャンプニーさんに聴きました。(あおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール 谷本 裕)

カルミナ四重奏団の始まりから伺いましょう。

この弦楽四重奏団の「根」は2つあります。一つは2人の弦楽器奏者。スイス人のヴァイオリン奏者マティーアス・エンデルレと、米国人ヴィオラ奏者の私です。1979年、米インディアナ州ブルーミントンの音楽学校で恋に落ち、彼の拠点チューリヒで生活することになりました。彼はその頃、室内楽に惹かれ始めていました。私は幼い頃から室内楽に馴染んでいて、2人で室内楽活動を志すのは自然な流れでした。もう一つの根は、ヴィンタートゥーア音楽院(*1)。マティーアスと、メンバーのスザンヌ・フランク(ヴァイオリン)、シュテファン・ゲルナー(チェロ)は同窓です。音楽家に成長する最初の同じ時期、同じ場所で培った絆があり、音楽性も共有しています。マティーアスと私が、弦楽四重奏団をつくる仲間を探し始めた時、これはとても貴重な財産でした。82年の暮れ、私とマティーアスはまず試しに、

シュテファンと弦楽三重奏曲を合奏してみたんです。音楽の「化学反応」が起き、意気投合しました。赤ワインを飲み交わし、弦楽三重奏に取り組むことを決めました。翌83年6月に予定されていたパリの国際コンクールに挑戦する。それが目標でした。アンサンブル名は「カルミナ・トリオ」にしました。

名の由来は？

シュテファンのアイデアです。私たちは元々、地名や人名に因む名は好みではありませんでした。ラテン語の「カルミナ」には「歌」と「詩」の意味が両方ある。音楽というものは、歌うのと同じくらい語るものでもあるから、これにしよう。 「カルミナ」ならドイツ語でもフランス語でも、どんな言語でもキチンと発音してもらえそうです。それに、シュテファンは高校時代、この名を付けたピアノ三重奏団でコンクール優勝したことがあったらしく「ラッキーネー

Carmina Quartet

1984年、スイスで結成。「パオロ・ボルチアーニ賞」国際弦楽四重奏コンクールで成功を収め(1位なしの2位)、国際的に報じられ名を世界に轟かせた。今や正に世界をリードする弦楽四重奏団である。シャンドル・ヴェグ(ヴァイオリン、指揮)、アマテウス弦楽四重奏団、ラ・サール弦楽四重奏団などに師事。指揮者ニコラウス・アーノンクールとの出会いで、古楽奏法への関心を強めた。内田光子、エリザベート・レオンスカヤ(以上ピアノ)、エマニュエル・パユ(フルート)、ヴォルフガング・マイヤー、ザビーネ・マイヤー(以上クラリネット)、ヴェロニカ・ハーゲン(ヴィオラ)、トルルス・モルク、アントニオ・メネセス(以上チェロ)、グザヴィエ・デ・メストレ(ハープ)、オラ

フ・ペーア、ヴォルフガング・ホルツマイヤー(以上、バリトン)らと共演、活動を広げている。DENONのシリーズCDは批評家に高評を受け、英グラモフォン賞、仏ディアパゾン・ドール、仏ル・モンド・ドゥ・ラ・ミュージック誌のChoc(最高評価)、ドイツ批評家賞など数々の賞を獲得、グラミー賞にもノミネートされた。田部京子と共演したCD「シューベルト：ピアノ五重奏曲『ます』、シューマン：ピアノ五重奏曲」が音楽之友社主催の2008年度レコードアカデミー賞室内楽部門賞を受賞。現在、スイス・ヴィンタートゥーアのチューリヒ芸術大学を拠点に、豊かな経験と優れた芸術性を次世代に伝えている。

いにしへの編曲、弾き込む

ムだ」と言うので、^{ばん かつ}験を担いだんです。ご利益が有ったのか半年後、私たちが優勝しました。これが84年、四重奏団創設へと繋がっていきました。

最初は弦楽三重奏団

皆さん、独奏で活動しようとは思っていませんでしたか。オーケストラに入る道もあったでしょう。ソリストの道は弦楽四重奏に比べ孤独で、或る意味、向こう見ずなものです。その点、カルテットはチーム。ソリストのようにひとりぼっちではありません。皆で頭と心を使い、話し合う。そして、生涯を賭けてレパートリーを学ぶのです。またカルテットのメンバーは(指揮者の下で演奏する)オーケストラ楽員に比べると、演奏表現を自分で決められる。独立した音楽家としてステキな仕事です。ただ、立場はフリーランス。基本的には経済的保証はありません。音楽家が、創造的な活動に打ち込むには純粋な自信や信頼できる仲間が必要ですが、家族の生活も支えられなくてはなりません。活動を始めて比較的早い時期、カルテットの活動が軌道にのっていなかったら、皆それぞれソリストやオーケストラの道を探ったのではないかと思います。そう考えると、あのパリの優勝は「カルミナ」がキャリアを築く上で、大きな弾みとなる、決定的な出来事でした。

スザンヌが加わり、弦楽三重奏から四重奏へ展開したのでしたね。

彼女は学生時代のヴァイオリンの先生がマティアスと同じでした。カルテット創設後、イタリアの難関コンクールで最高位に入り、スイスの雑貨店チェーン「ミグロス」も財政支援を決めてくれた。アマデウスやラ・サールといった著名な弦楽四重奏団、シャンドル・ヴェーグ、ニコラウス・アーノンクールら優れた音楽家からも指導を受ける機会に恵まれ、メジャーなCDレーベルとの仕事が決まるなどトントン拍子。カルテットになってからも、「カルミナ」は確かにラッキーでした。

既に、30年も活動を続けています。

ロンドンのウィグモア、ベルリンのフィルハーモニー、アムステルダムのコンサートヘボウ、ワシントンのケネディセンター…世界の舞台上で演奏を重ねてきました。旅に付き物の、事故や冒険も少なくありません。乗った飛行機のエンジンが火を噴き、空港に戻ったこともあります。クラリネットのザビーネ・マイヤーと地中海のクルーズ船内で共演するツアーは、嵐に翻弄され、乗客も私たちは船酔いでダウン。多くの公演がキャンセルになりました。イスラエルでは毎日、マイクロバスであちこち出前演奏をしました。日本との付き合いも長い。最初に来た頃はメンバーも皆、若かった。全く新しい文化に触れ、何度も来るうち、とても好きになりました。

解散の危機もありましたか。

活動全体に影が差すようなピンチは思い出せませんね。カルテットのメンバーなら誰でも、少なくとも一度くらいはリハーサルで「私、もう辞めちゃうと思うてるの!」とキツイ口調で言い放ったことがあるはず。原因の大半はプライベート。カルテットのメンバーも人間です。時には外で抱える問題を、何とか解決しないとならないことがある。カルテットそのものにも、何ごとかはかどる時期もあれば、全然ダメな時期もあります。小さなグループには日常茶飯。結婚生活だってそうでしょう?でも私たちはこうして今なお一緒に弾いています。そのことが私には誇り。芸術的に、人間的に、偉業といえるのではないのでしょうか。

スイス人気質を共有

長続きの理由は。

忠誠を尽くすとか、物事にしっかり関与するとか、私たちは、生き方が似ています。また皆、兄弟・姉妹が3人以上も居る家で育ちました。「集団」に慣れており、自分より優先することも出来る。一方で皆、自分の意見もハッキリ持つておいて、これは演奏の質を高めるのに役立ちます。私以外の3人はスイス育ち。多分このことも大きいでしょうし、全員がチューリヒに住んでいるのも良い。厳しい仕事に徹底し取り組む「スイス人気質」を揃って身に付けています。スイスの社会が、弦楽四重奏団の活動



右から2人目がウエンディさん

に適している点も見逃せません。長旅をしなくても、良い報酬が得られる公演が地元で多数あります。メンバーは、カルテットを犠牲にしなくても、さまざまな音楽に関われる機会に恵まれています。近年、私たちの活動は教育分野にも広がりました。ソリストとして活動したり、音楽祭を主宰したり、パロック奏法の研究・演奏に打ち込むとか、指揮にも挑むなど、興味を自由に追求しています。人脈が広がり、生活もより安定しますし、結果的に本業が豊かになっていくのです。

カルテットとしての特性はどこに。

私たちは一人ひとりがスコア(総譜)をしっかり読み込み、複雑に絡み合った役割を踏まえつつ、作曲家の意図を理解するようにしています。多くの弦楽四重奏団も同じでしょうが、特に異なっているのは、それぞれが独自の解釈を持つことを尊重する

点でしょう。古楽(*2)の試みも特徴です。私たちは80年代の古楽運動に触発された、多分最初の弦楽四重奏団の一つ。古典派作品を明晰でユニークな手法で演奏することは重要なテーマです。

合唱パートを「復活」

今回は何とモーツァルトの「レクイエム」を取り上げますね。

私たちの近年の活動の中でも極めて異色のプロジェクトです。この曲は、私たちの心の深い部分に響く、素晴らしい音楽です。でも弦楽四重奏団の演奏家として、この曲に携わることは出来ませんでした。ある時、スザンヌが偶然、ラジオでどこかのグループがこの曲を弾くの聴いた。「モーツァルトの同時代人が編曲していたんですね。「私たちがやってみましょう。きっと上手く出来るわ。」そう言い募るので、他のメンバーも心が動きました。最初に演奏した時は実のところ、このアレンジは完全とは言えないと思いました。でも、音楽の力が強く、「これは演奏しなくてはならない」とも感じました。マティアスは、削除されていた合唱パートを復活させるなど、スコアを少しずつ改めました。カルテットとしても何週間もリハーサルを重ね、微調整を繰り返したんです。反対・賛成、きりのない議論。同じパッセージを違う編曲で録音し、聴き比べたりもしました。気の遠くなるプロセスでしたが、音楽の魔法に支えられました。弦楽四重奏版では、作品の新しい姿が浮かび上がってきます。モーツァルトの音楽が、閃光のように輝くのです。お客様も頭を切り替え、クリアで親密な演奏に耳を澄ませていただきたいですね。

取材協力:トリトン・アーツ・ネットワーク

(*1) 130年以上の歴史を持つスイスの名門音楽院。現在は、チューリヒ芸術大学の一部

(*2) ある楽曲を、作曲当時の楽器や方法で演奏することを通じ、本来の姿を追求する演奏手法

当日午前中に「室内楽入門」も

弦楽四重奏で聴くモーツァルト「レクイエム」-カルミナ四重奏団公演は、2015年11月27日(金)午後2時開演。入場料5,000円(指定席)、友の会4,500円。学生1,000円(限定数)。ザ・フェニックスホールチケットセンターのみお取り扱い。お求め・お問い合わせは同センター(電話06-6363-7999 土・日・祝を除く平日午前10時~午後5時)。同日午前11時から、ワークショップ「弦楽四重奏の『意思決定』中・高年のための室内楽入門」を開く(詳細は3ページを参照)。お問い合わせはザ・フェニックスホール事務局(電話06-6363-0211 平日午前10時~午後5時)。

■プログラム

ハイドン:弦楽四重奏曲 八長調「皇帝」作品76-3 Hob.III-77

ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第4番 八短調 作品18-4

モーツァルト:レクイエム 二短調 K626 (P・リヒテンタール編 弦楽四重奏版)

Tea Time Concerts

Friday
2 o'clock20th
Anniversaryフェニックスならではの、スペシャル・マチネ。
通し券なら、1回2,600円

金曜の午後、上質な音楽をおいしいお菓子・お飲み物と共にお届けするティータイムコンサート。都心に立地し、関西一円の広大な地域から多くの皆様においでいただけるホールの特性を生かし、1995年のホール開設以来、お楽しみいただいています。2015年度は7公演。ホール開設20年の節目は世界3大オーケストラの一つ、オランダのロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団メンバーやカルミナ四重奏団といった室内アンサンブル、清新な内外の実力派や音楽性あふれる若手のリサイタルなど、自信のラインナップ。フェニックスだけの「スペシャル・マチネ」を、どうぞお楽しみに。

特別協賛：みずほ銀行

欧州を代表するオーケストラメンバーが奏でる、極上アンサンブル。

ムジカ・レアーレ
ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団
メンバーによる室内楽2015年5月1日(金) 14:00 指定席
¥5,000(友の会価格¥4,500)

●出演 ●カーステン・マッコール(首席フルート)
アルノ・ピーターズ(クラリネット)
内藤淳子、シルヴィア・ファン(以上ヴァイオリン)
波木井賢(首席ヴィオラ)
タチアナ・ヴァシリエヴァ(首席チェロ)
ビエール・エマニュエル・ド・メストレ(コントラバス)

●曲目 ●フェスカ：フルート四重奏曲 第3番 へ長調 作品40
モーツァルト：クラリネット五重奏曲 へ長調 K581
ドヴォルザーク：弦楽五重奏曲 第2番 ト長調 作品77 B49

ベルリンフィルやウィーンフィルと並び称されるオランダの名門コンセルトヘボウ管。ソリストとして、室内楽奏者として、世界で舞台を重ねるメンバーも多い。チェロのヴァシリエヴァはじめ、選り抜きの「名手」が奏でる室内楽の妙。

招聘・協力：NPO法人トリトン・アーツ・ネットワーク

剛毅かつ繊細。「チェコの至宝」が奏でる、中欧の響き。

伊東信宏プロデュース
カニユカのベートーヴェン
—3つのチェロソナタ2015年6月26日(金) 14:00 指定席
¥3,000(友の会価格¥2,700)

●出演 ●ミハル・カニユカ(チェロ)、三輪郁(ピアノ)
●曲目 ●ベートーヴェン：チェロソナタ 第2番 ト短調 作品5-2
第4番 八長調 作品102-1、第3番 イ長調 作品69

ミハル・カニユカの名は、室内楽に詳しい方なら、ブラジャー・クワルテットのチェロ奏者として記憶しておられるかもしれません。1960年プラハの生まれで、今ではチェコの音楽界を背負う存在へと成長しました。この世代のチェロ奏者は層が厚いのですが、カニユカはその中でも、古典や室内楽を得意とし、それらを独特の繊細さで弾きこなす貴重な存在だと言えます。今回はウィーンで学び、中欧の伝統を身につけた、三輪郁さんとのデュオ。コкетな魅力溢れる三輪さんのピアノと包容力のあるカニユカのチェロとの組み合わせで聴くベートーヴェンのソナタは、きっと特別な経験となると思われます。伊東信宏(大阪大学文学研究科教授、ホール音楽アドバイザー)



フィンランドの血を引く名手の、「ライフワーク」コンサート。

真夏のシベリウス
—渡邊規久雄ピアノリサイタル2015年7月17日(金) 14:00 指定席
¥3,000(友の会価格¥2,700)

●出演 ●渡邊規久雄(ピアノ)
●曲目 ●シベリウス：交響詩「フィンランディア」 作品26
5つの小品「樹の組曲」 作品75
5つの小品「花の組曲」 作品85 (ほか(予定))

渡邊は、シベリウスの交響曲の指揮で知られた名指揮者・渡邊暁雄の次男。自らもシベリウスの作品演奏をライフワークと位置付け、青年期から取り組んでいる。2015年は作曲家生誕150年の節目。クールな北欧の音楽を、熱いメッセージと共に。



「個」であり、同時にチームの一員。
音楽家の「コンセンサス」を探る。

ワーク
ショップ弦楽四重奏の「意思決定」
—中高年のための室内楽入門

2015年11月27日(金) 11:00 自由席

1,000円(単独購入については9月頃発売予定)
本公演チケットご購入者は無料(要別途申込み)
※ワークショップのお申込みについてはサロン7月号でご案内致します。

結成30年。チューリヒ拠点の老舗カルテットが拓く、室内楽の新境地。

弦楽四重奏で聴く
モーツァルト「レクイエム」
—カルミナ四重奏団2015年11月27日(金) 14:00 指定席
¥5,000(友の会価格¥4,500)

●出演 ●
カルミナ四重奏団
マティアス・エンテルレ、スザンヌ・フランク(以上ヴァイオリン)、
ウェンディ・チャンプニー(ヴィオラ)、シュテファン・ゲルナー(チェロ)
●曲目 ●
ハイドン：弦楽四重奏曲 八長調「皇帝」 作品76-3 Hob.III-77
ベートーヴェン：弦楽四重奏曲 第4番 八短調 作品18-4
モーツァルト：レクイエム 二短調 K626 (P・リヒテンタール編 弦楽四重奏版)

モーツァルトの遺作として知られる「レクイエムK626」。オーケストラと独唱、合唱のために書かれた傑作である。これを何と弦楽四重奏に凝縮し、奏でる異色のコンサート。公演当日午前には、ベートーヴェンの作品を題材に、弦楽四重奏のパートナーシップを考える、ワークショップも開催。



11月29日(土)
10:00 受付開始
ザ・フェニックスホール
友の会優先予約

12月1日(月)
10:00 受付開始
イー・フェニックス
E-PHX優先予約

12月2日(火)
10:00
一般発売

インターネット予約、ご来店による
お申込みは12月3日(水)10:00から!

2015年度
ティータムコンサートシリーズ [108]~[114]
いずれも金曜日 14:00開演 指定席 お茶・お菓子つき
年間通し券[7公演]
一般価格¥21,000 友の会価格¥18,000
学生券各¥1,000(限定数)

東京国際ヴィオラコンクール制覇。中国生まれの俊才、独壇場。

[113]

今井信子presents
ウェンティン・カン無伴奏
ヴィオラリサイタル



2016年1月29日(金) 14:00 指定席 ¥2,000(友の会価格¥1,800)

●出演●ウェンティン・カン(ヴィオラ)

●曲目●テレマン:無伴奏ヴィオラのための12の幻想曲から抜粋
バッハ:無伴奏ヴィオラ組曲 第1番(原曲:無伴奏チェロ組曲 第1番 長調 BWV1007)
ブリテン(今井信子編):
無伴奏ヴィオラ組曲 第1番 作品72(原曲:無伴奏チェロ組曲 第1番 作品72) ほか

ウェンティンの音楽は、2年半前の第2回東京国際ヴィオラコンクールで優勝して以来、目覚ましい成長を続けています。生来の初々しさに加え、自身の主張と音楽観がより明確になり、演奏に貫禄が出てきました。ある日レッスンの後に、彼女が「先生のためにどうしても弾きたい曲があります。私にとってバッハは日常の糧であり、音楽家として生きて行く究極の目的なんです。」といてバッハを聴かせてくれました。ホールのお客様にも彼女からのプレゼントぜひ受け取って頂きたいと思います。音楽にひたむきな彼女に心からの声援を送ります。

今井信子(ヴィオラ奏者、ホール音楽アドバイザー)

パリ・ベルリン・ニューヨーク。三都拠点の3人の、爽快トライアングル。 [112]

トリオ ソ・ラ ピアノ三重奏の楽しみ



2015年12月4日(金) 14:00 指定席
¥3,000(友の会価格¥2,700)

●出演●トリオ ソ・ラ
瀬川祥子(ヴァイオリン)、水谷川優子(チェロ)、
谷川かつら(ピアノ)

●曲目●ハイドン:ピアノ三重奏曲 長調「ハンガリー風ロンド」Hob.XV-25
シューベルト:ピアノ三重奏曲 第1番 変ロ長調 作品99 D898
ドヴォルザーク:ピアノ三重奏曲 第4番 ホ短調 作品90「ドゥムギー」

2013年、ベートーヴェンの三重協奏曲で共演したのを機に結成された。既に内外で中堅ソリストとしてのキャリアを持つ3人だけに、多彩な音楽性が豊かなアンサンブルをはぐくむ。今回はシューベルトらの名作を集め、ピアノトリオの魅力を発信。

大阪出身、パリ在住。「越境のハーピスト」が奏でる、斬新の響き。 [114]

ハープ・アンリミテッド 福井麻衣リサイタル

2016年2月26日(金) 14:00 指定席 ¥2,500(友の会価格¥2,250)

●出演●福井麻衣(ハープ、エレクトリックハープ、打楽器、語り)、井上麻子(サクソフォン)

●曲目●ツァーベル:グノーの「ファウスト」の主題による幻想曲 作品12

橋本玲子:アヴァロンシユ V~ラ・プロヴィゼール(2014)

ピアソラ:『タンゴの歴史』から「カフェ1930」ほか

登龍門として知られるパリ国際ハープコンクールで、日本人として初優勝。「ハープ」渾身の、挑戦ステージ。古典的な独奏曲はもちろん、サクソフォンとの珍しいデュオ、エレキハープや打楽器、語りも駆使し拓く、「優雅な楽器」のフロンティア。



ホール主催・共催・協賛・協力公演チケットのお申し込み方法

06-6363-7999

土・日・祝日を除く平日の10:00~17:00

http://phoenixhall.jp/

チケットセンターのページからお申込みください

直接のご来店による
お申込み

・ザ・フェニックスホールチケットセンターはホール建物5階、エレベーターを降りて廊下右手です。



- ザ・フェニックスホール友の会優先予約
 - ・ザ・フェニックスホール友の会会員様の優先予約日です(電話予約のみ)。
 - ・主催公演1公演につき会員お1人様2枚まで1割引でお求めいただけます。チケット購入の際、枚数制限はありませんが、3枚目以降は一般価格となります。
 - ・友の会への入会をご希望の方は、チケットのお申込み時にお電話でお申しつけください。同時に優先予約をお受けすることができます。その際、年会費1,000円が別途必要となります。

- E-PHX(イー・フェニックス)優先予約
 - ・E-PHX(イー・フェニックス)にご登録の方の優先予約日です(電話予約のみ)。
 - ・チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。
 - ・事前にザ・フェニックスホールホームページ、ホール会員のページからご登録ください。お電話での登録はできません。

- 一般発売
 - ・一般発売日は、電話予約のみのお申込みとなります。
 - ・チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。

- インターネット予約(主催公演のみ)
 - ・ザ・フェニックスホールホームページ、チケットセンターのページからお申込みください。
 - ・チケット予約フォームに記載のない公演につきましてはおそれ入りますがお電話でお問合せください。
 - ・ホームページ更新の都合により、完売表示のない公演でもお申込み時には完売となっていることもございます。どうぞご了承ください。
 - ・学生券のインターネットによるご予約は受付いたしておりません。
 - ・チケットご予約フォーム送信後、営業日3日以内に座席の有無、座席番号、入金方法につきまして確認メールをお送りいたします。

チケットお申込み後のお受け渡し方法 下記①または②のどちらかとなります。

- ①お申込み日から10日以内にザ・フェニックスホールチケットセンターへご来店ください。営業時間は土・日・祝日を除く平日の10:00~17:00です。
- ②先に郵便振込みをしていただき、入金確認後チケットをご郵送させていただきます。皆様のお手元にチケットが届きますのはご入金をいただいてから約10日後となります。その際、振込手数料はお客様にてご負担ください。尚、郵送は簡易書留(一律420円)のみとさせていただきます。※11月29日(土)ご予約分から改定。

振込口座 00940-0-95351 加入者名 ザ・フェニックスホール

■アンサンブル・アラ・カルト57

企画制作協力: 京都フランス音楽アカデミー実行委員会、アンスティチュ・フランセ関西

友の会
発売
11/29(土)

2015年4月4日(土)

設立25年。歴史と伝統を継承する国際プロジェクトの、「志」を聴く。

フランス音楽の名手たち

京都フランス音楽アカデミー 過去・現在・未来

16:00開演 指定席

一般前売¥4,000(友の会価格¥3,600)

学生¥1,000

出演 シルヴィー・ガゾー(ヴァイオリン)、ブルーノ・パスキエ(ヴィオラ)、ドミニク・ド・ヴィリアンクール(チェロ)、ジョルジュ・ブルーデルマッハー(ピアノ)
◎特別ゲスト: 森悠子(ヴァイオリン) ◎ゲスト: 石上真由子(ヴァイオリン)

曲目 フランス: 弦楽三重奏曲… シルヴィー・ガゾー(ヴァイオリン)、ブルーノ・パスキエ(ヴィオラ)、ドミニク・ド・ヴィリアンクール(チェロ)

ラヴェル: ソナチネ、ドビュッシー: 練習曲集 第2巻(ピアノ独奏)… ジョルジュ・ブルーデルマッハー(ピアノ)

ショーン: ヴァイオリン、ピアノ、弦楽四重奏のための協奏曲 二長調 作品21

… 石上真由子(ヴァイオリン独奏)、ジョルジュ・ブルーデルマッハー(ピアノ独奏)、

シルヴィー・ガゾー(第1ヴァイオリン)、森 悠子(第2ヴァイオリン)、ブルーノ・パスキエ(ヴィオラ)、ドミニク・ド・ヴィリアンクール(チェロ)

「京都フランス音楽アカデミー」は四半世紀にわたり、日本におけるフランス音楽の受容や普及に貢献している。本公演では講師陣の室内楽やソロをはじめ、創設者の森悠子、そして「卒業生」のホープ・石上真由子を交え、「未来」を拓くアンサンブルを奏でる。



シルヴィー・ガゾー (Sylvie Gazeau/ヴァイオリン)

ニース地方音楽院を経て、パリ国立高等音楽院で65年にヴァイオリンで、67年に室内楽で各1等賞受賞。同年マリア・カナルス国際コンクール、翌68年カール・フレッシュ国際コンクールで第2位。70年、米インディアナ大学でヘンリック・シェリングとジョゼフ・ギンゴールドに師事、ギンゴールドの助手となる。79年フランスでエネスコ賞「年間優秀ヴァイオリニスト」に選ばれた。マルボロ音楽祭など各地の音楽祭に出演、メロス・アンサンブルの第1ヴァイオリンや、ビュール・ブーレーズ主宰のアンサンブル・アルテルコンタンボランでソロ奏者を務めた。85年パリ国立高等音楽院ヴァイオリン科教授。98年から同音楽院教育部門ヴァイオリン指導法教授。



ブルーノ・パスキエ (Bruno Pasquier/ヴィオラ)

1943年生まれ。61年パリ国立高等音楽院で1等賞獲得。65年ミュンヘンのARD国際音楽コンクール弦楽四重奏部門で優勝。65~85年、パリ・オペラ座管弦楽団首席奏者、85~90年、フランス国立管弦楽団首席奏者。ヴァイオリンのレジス・パスキエ(弟)、チェロのロラン・ビドゥーと弦楽三重奏団を結成。レコード録音では76年にディスク大賞、77年にフランス・ディスク・アカデミー大賞など多数の賞を受賞。映画「青いパイアの香り」や「夏至」の音楽を担当したトン=ツァ・ティエのヴィオラ協奏曲を2008年、ラジオ・フランスで演奏。数々の国際アカデミーで教えており、72年からパリ国立高等音楽院で教鞭をとる。レジオン・ドヌール勲章シュヴァリエ章、芸術文化勲章オフィシエ章受章。



ドミニク・ド・ヴィリアンクール (Dominique de Williencourt/チェロ)

ジノ・フランチェスカッティに助言を受けた後、アンドレ・ナヴァラ、フィリップ・ミュレル、ジャン・ユポー、ムスティスラフ・ロストロポーヴィチらに師事。これまで50ヶ国以上で演奏、ショスタコーヴィチ弦楽四重奏コンクールやアンドレ・ナヴァラ国際コンクールで審査員を務めた。バクリ、ショヴォーといった作曲家から作品献呈を受け、初演にも参加。バッハ、ハイドン、ベートーヴェン、ブラームス、サン=サーンス、ドヴォルザークらの作品や、旅行から着想を得た自作も多数録音。フランス・ディスク・アカデミー大賞受賞。現在、パリ地方音楽院で教鞭を取る。フランス国家功労勲章シュヴァリエ章を受章。使用楽器は1754年製のJ・ガリアーノ。



ジョルジュ・ブルーデルマッハー (Georges Pludermacher/ピアノ)

3歳でピアノを始め、11歳でパリ国立高等音楽院入学。リュセット・デカーヴ、ジャック・フェヴリエらに師事。ヴィアンナ・ダ・モッタ国際とリーズ国際の2つのコンクールで第2位、79年ゲザ・アンダ国際コンクール優勝。ソリストとしてゲオルク・ショルティら多くの指揮者と共演。ヴァイオリンのナタン・ミルシテインらとの共演で室内楽への愛着も深める。ドビュッシーの練習曲でル・モンド・ドゥ・ラ・ミュージック誌賞、ディアパゾン誌賞、フランス・ディスク・アカデミー大賞受賞。ベートーヴェンの「ディアベリ変奏曲」でシャルル・クロ・アカデミー大賞受賞。最新録音は自身編曲によるピアノソロ版ストラヴィンスキー「春の祭典」。元パリ国立高等音楽院教授。



◎特別ゲスト 森 悠子(もり)・ゆうこ/ヴァイオリン

6歳よりヴァイオリンを始める。桐朋学園大卒業後、齋藤秀雄教授の助手を務めたのち、旧チェコスロヴァキアとフランスに留学。1972年パイヤール室内管弦楽団入団。77~87年フランス国立新放送管弦楽団に在籍。88~96年リヨン国立高等音楽院助教授。90年京都フランス音楽アカデミー創設。97年長岡京室内アンサンブル設立。99~2004年ルーヴル大学シカゴ芸術大学音楽院教授。フランス政府から芸術文化勲章シュヴァリエ章、オフィシエ章授与。09年から、くらしき作陽大学音楽学部教授。10年著書「ヴァイオリニスト 空に飛びたくて」刊行(春秋社)。11年から淡路音楽塾指導者。13年から指揮者・飯森範親とオーケストラ・室内楽 特別セミナーを行う。



◎ゲスト 石上真由子(いしがみ)まゆこ/ヴァイオリン

2000年ローマ国際音楽祭に招待される。04年京都芸術祭出演。05年全日本学生音楽コンクール中学校の部大阪大会第2位。08年日本音楽コンクール第2位・岩谷賞(聴衆賞)、E・ナカミチ賞受賞。11年ルーマニア国際音楽コンクール弦楽部門第1位・全部門最優秀賞、コンチェルトデビュー賞受賞。東響、京響、仙台フィル、大フィル、ブラショフ国立響、関西フィルなどと共演。09年京都府民ホール「アルティ」でデビューリサイタル。アルティ合奏団、長岡京室内アンサンブルで活躍。京都府立医科大学に在学し、肢体障がい児のためのミニ公演や病院でのボランティア演奏に励む。故・新井寛、田村隆至、ジャン=ピエール・ヴァレーズ、森悠子、安紀ソリエールの各氏らに師事。

京都フランス音楽アカデミーは、フランス外務省芸術文化活動協会(現アンスティチュ・フランセ パリ本部)や有志の支援のもと、1990年から運営されている日仏音楽交流事業です。毎春、フランスより、弦楽器、管楽器、声楽などの一流の教授陣を招聘し、アンスティチュ・フランセ関西(旧 関西 ■ 2千人が“卒業” ■ 日仏学館)内で、約2週間のマスタークラスを開講。その規模、歴史、水準の高さから、フランス国外で行われる最も重要なフランス音楽教育の場となっています。これまで25年間で延べ2000名以上が受講し、多くの受講生が国内外の音楽界で活躍しています。



友の会
発売
11/29(土)

■フェニックス・エヴォリューションシリーズ72

主催 胡弓 いま⇄むかし事務局

2015年5月20日(水) 胡弓 いま⇄むかし ~伝えたい音、今奏でる~

共催
公演

19:00開演 自由席

一般前売¥3,000(友の会価格¥2,700)

一般当日¥3,500(友の会価格¥3,150)

学生前売¥2,000 学生当日¥2,500

※学生券は高校生以下対象。限定数。

出演 木場大輔(胡弓)、菊池雄司(歌、三絃)、足立知謙(ピアノ、シンセサイザー)

曲目 第一章 地歌と胡弓 菊岡検校:笹の露 第二章 胡弓の本曲 作曲者未詳:名古屋系胡弓本曲 鶴の巣籠

第三章 今を奏でる 木場大輔:あの雲のむこう 富山県民謡:こきりこ節 木場大輔:残照の陣

峰崎勾当:ゆき 木場大輔:ムルドルの夢 木場大輔:焰

日本の伝統楽器で唯一の擦絃楽器、胡弓。約400年にわたる歴史と伝統があり、最古の三味線音楽である地歌をはじめ、文楽、歌舞伎、民謡など幅広い芸能との間で影響を及ぼしあっている重要な邦楽器のひとつですが、胡弓を中心に据えた演奏会は極めて稀であるのが実情です。今回のコンサートでは伝統の音色から最新のアプローチまで、たつぷりと胡弓の魅力に触れることができます。第一章 胡弓の伝統は、上方を中心に発達した三味線音楽「地歌」との密接な関わりの中で育まれてきました。注目の演奏家、菊池雄司氏と、江戸時代の名曲「笹の露」をお届けします。第二章 胡弓本曲「鶴の巣籠」を独奏で、胡弓独特の表現をじっくり聴かせます。第三章 胡弓の音色とピアノの美しい余韻、また曲によりエレクトロニカの音響が融合した現在進行形の胡弓の「今」を、ピアニスト・サウンドクリエイターの足立知謙氏とお届けします。胡弓の豊かな音楽性と可能性に迫る、貴重なコンサートです。



木場大輔(きば・だいすけ/胡弓) 淡路島出身。甲陽音楽学院で音楽理論とピアノを学ぶ。古典胡弓を原一男師に師事。2009年映画「カムイ外伝」(松山ケンイチ主演)で演奏と出演。2011年 NHK Eテレ「にっぽんの芸能 花鳥風月堂」に出演。胡弓とピアノのユニット「KODACHI ~ 木立~」のCD「Japan」を発表。2013年 和楽器ユニット「おとぎ」のCD「音戯紀行」を発表。全楽曲の編曲または作曲を手掛ける。2014年 自作曲「焰」が市川海老蔵氏の公式動画に採用される。吉田兄弟全国ツアーに参加。NHK FM「邦楽ジョッキー」に出演。江戸時代より伝わる胡弓の伝統を尊重しつつも、四絃胡弓の開発など、胡弓の可能性を追求している。門弟の会「絹擦会」を東京・横浜・大阪・高知で主宰。



菊池雄司(きくちゆうし/歌、三絃) 12歳より地歌演奏家菊原光治師に師事。上方系胡弓を菊津木昭師に師事。地歌三味線などの伝統を承継しながらも現代邦楽や新しいスタイルでの演奏にも目を向け、国内にとどまらず韓国、ヨーロッパ各国などでも精力的に公演を行っている。演奏活動のほか京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター共同研究員、宝塚歌劇団の箏指導も務める。地歌舞地方(じかた)として舞台やTVに出演するほか、邦楽アウトリーチを展開し、より多くの人に邦楽に触れてもらえるよう活動している。2000年長谷検校記念第6回全国邦楽コンクール 最優秀賞・文化庁奨励賞受賞、2004年大阪舞台芸術新人賞受賞、2005年大阪市「咲くやこの花賞」受賞、2012年大阪文化祭奨励賞受賞。



足立知謙(あだち・ともりのり/ピアノ、シンセサイザー) 大学在学中よりプロのピアニストとして活動をはじめ、2003年スウィングロックバンド「TRIBECKER」を結成。2009年、胡弓奏者木場大輔と「KODACHI ~ 木立~」を結成。ヒップホップグループ「韻シスト」のサポートや、セレッソ大阪のアンセム演奏など、多岐にわたる演奏を行っている。サウンドクリエイターとしては、VOLVO、JR三都物語web、COOP共済、スタジオアリスなど、数多くのTVCMや映像作品、商業施設のサウンドトラックの制作、ミュージカル・ファッションショーの音楽制作、他アーティストへの楽曲提供を行っている。

フェニックス・エヴォリューション・シリーズは、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社の芸術文化支援活動の一つです。同社が運営するあいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール(大阪・梅田)での公演企画を公募、審査で選ばれた方にホールと付帯設備を無料で貸与致します。

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール協賛・協力公演のご案内 ザ・フェニックスホール友の会会員の方には割引特典があります。当日券をお買い求めの際は会員証をご提示ください。

協賛公演 《冬のチェンバロ音楽祭2014》コミタス弦楽四重奏団「アルメニアの響き」

発売中

2014年12月1日(月) 19:00開演 自由席 一般前売¥3,500(友の会価格¥3,150) 一般当日¥4,000 学生&25歳以下¥2,500

※友の会割引は1会員2枚まで。当日券の割引はございません。

主催 冬のチェンバロの会

出演 エドゥアルド・タデヴォシヤン(第1ヴァイオリン) シュージ・イェリツィアン(第2ヴァイオリン)
アレクサンダー・コセミアン(ヴィオラ) ハスミク・ヴァルダニヤン(チェロ)

曲目 ヘンデル=ハルヴォルセン(アスラマジヤン編曲):パッサカリア
ショスタコーヴィチ:弦楽四重奏曲 第11番 へ短調 作品122
チャイコフスキー:弦楽四重奏曲 第1番 作品11 より アンダンテ・カンタービレ
ミルゾヤン:弦楽四重奏曲 二短調「主題と変奏」
コミタス(アスラマジヤン編曲):弦楽四重奏のためのアルメニア民族音楽14の小品
「春」「おーい、ナザンよ」「親愛なる将軍」「赤いスカーフ」「お祭りの歌」「鶴」
「ガールズ・ダンス」「干し草作りのうた」「小さな山鶉のうた」 ほか

アルメニアにおける“近代クラシック音楽の父”
コミタス・ヴァルダベト(1869~1935)の名を冠し、ソ連時代、ギリシス、リヒテル、ロストロ
ポーヴィチらと共演を重ね、作曲家ハチャトゥ
アンが「アルメニア音楽文化の至宝」と呼んだ
名門カルテット。コミタス生誕145周年、カル
テット結成90周年を記念しての夢の来日公演
が実現します。“20世紀の伝説”、いまここに。



協賛公演 高橋孝輔ピアノリサイタル

発売中

2015年3月6日(金) 19:00開演 自由席 一般前売¥2,500(友の会価格¥2,250) 一般当日¥3,000(友の会価格¥2,700)
学生¥1,000 ※友の会割引は1会員2枚まで。

主催 Museumpiece

出演 高橋孝輔(ピアノ) 曲目 J・S・バッハ:前奏曲とフーガ 変ホ/嬰二短調(平均律クラヴィーア曲集 第1巻、第8番 BWV853)
ショパン:24の前奏曲 作品28 ドビュッシー:前奏曲集 第2巻

楽器の試奏、調律の確認、特定の技法や調性の準備等のための、僅か10~20小節の楽曲であった「前奏曲」。バッハは、フーガと組み合わせることで新たな古典的価値を与え、ショパンは、予備楽章から一個の独立した完成品へと地位を引き上げ、ドビュッシーは、素材の複雑さと形式の完璧さを加えることにより、最も基本的性格である“短さ”を失うことなく、発展段階の最高峰を極めた。「前奏曲」の軌跡を、一緒に辿ってみませんか?



協力公演 非破壊検査ニューイヤーコンサート2015 ローマ 春のソナタ

発売中

主催 読売テレビ

2015年1月8日(木) 19:00開演 指定席 S席(1階席)は完売しました。 A席(2階席) 5,000円(友の会¥4,500)

1階席は丸テーブルでワインを飲みながらお楽しみいただけます。2階席は開演前と休憩時にロビーでワインを楽しんでいただけます。

出演 ロザリーア・ブシェーミ(ソプラノ)、今井俊輔(バリトン)、アヴォス・ピアノ・カルテット(ピアノ、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ)

曲目 J・シュトラウスII世:ワルツ「春の声」作品410 ロッシーニ:オペラ「セビリアの理髪師」から“私は街の何でも屋”
ヴェルディ:オペラ「ラ・トラヴィアータ(椿姫)」より“プロヴァンスの海と陸” ブッチーニ:オペラ「ラ・ボエーム」から“私が街を歩くと”
デンツァ:フニクリフニクラ(二重唱) ほか

あの青空へ

—岩谷祐之



Keizo Matsui

今年の夏、生まれて初めて甲子園で高校野球選手権大会というものをLIVEで観てきた。白球熱投光る汗、それぞれの試合に感動のドラマがあった。音楽にしる野球にしる、生の迫力は凄い!若さって素晴らしい!と改めて実感した。

僕が学生の頃は、夏は毎年決まって学生音コンの準備の季節だった。コンクールの為に、毎日10時間以上練習する。練習練習また練習、レッスンも何人もの先生方から受けて、何なら海外にまで受けに行く。親と大げんかしてぶつかって、時には自信を無くし、泣いて放り出しては思い直し、また一人黙々と練習する。こんな毎日が、僕の夏の思い出の半分を占めている。あとの半分はキャンプに行き川で泳いだり、友達のうちに泊まりにいて遅くまで騒いだり、宿題をため込んで後で慌てたりと、ごく普通の子供と変わらない夏休みを過ごしていた。

練習方法としては、僕のように頭がゆったりな子供には反復練習が一番効いた。頭で覚えるより先に、指先や右腕、身体全体で曲を覚えていく。あまり細部にこだわりすぎ、あれもこれも完璧に…と長々やっている、脳の方が先に参ってしまうので、とりあえずの鳥瞰図を頭に入れて、あとはパーツを磨いて組み上げていくように曲を仕上げていく。子供の頃の僕にとっては(今でもかもしれないが)とにかくがむしゃらに弾きまくるといのは結構性に合っていたように思う。

いざ本番の日は、いつも晴れていた。のんびりした性格の僕も、コンクールの舞台では流石に緊張した。悔いのないよう全力で弾ききろう。ただ純粹にそう思っていれば良かったんだろうが、苦手なあのパッセージがひっくり返ったらどうしようだの、朝食べたあれがうまかっただの、ともかくあれこれと考えながら弾いていた。後になって思うが、どこの何々ちゃんや誰某くんがどんなに素晴らしい演奏をしようがしまいが、まして朝食の

メニューに卵焼きがあろうがなかろうが、今日の私には全く関係ない!という強い神経を持ち合わせていないと、演奏前にもう集中が切れる。会場内で漏れ聞こえる他の子たちの演奏に影響されて、本来の自分がわからなくなってしまう。ある年は前夜に高熱が出てしまい、朦朧としながらも舞台にあがり、もはや気合だけで弾き切ったものに見事に惨敗した経験がある。後になって聞いた話では、「この子は全然芽が出ないか、大物の器かどっちかだ」ということだった。大物の器とは恐れ多いが、少なくとも今はなんとか芽も出て、僕なりに精一杯、花を咲かせている。

学生音コンを1度でも経験された方はご存じかと思うが、本当の緊張は弾いている最中より後にやってくる。結果待ち、このたった小一時間程の時間に、受講者はもちろん、付添の家族にとっても永遠と思われるような重い空気がロビーに漂う。悶々とした挙句、いざ結果発表の書かれた紙が恭しく持ってこられ、丸まった紙が上から下まで一気に「ぼっ!」と広げられた時の、一瞬のドラマと感動と興奮。これは高校野球にもひけをとらない。

「通るだろう」と噂されたこの子が落ちて、「まさか」と思うあの子を通る。一年間の苦労も一瞬にして終わる。冷たい様でもこれがコンクールであり、絶対は何一つ無い世界なのだ。あるとすれば、「私は今日この曲で、きっと誰より輝いてみせる!」という強い心と、それを支える日々の地道な努力。この二つがあれば、最早コンクールの結果なんか関係なくなる。

子供の頃には夢にも思わなかったが、僕は今、コンクールの審査をつとめる側になった。子供達にとっては待ちに待ったコンクール。磨き抜いた技を披露し、それぞれの個性を発揮して、精一杯の演奏をしてくれる。皆の渾身の演奏が、楽しみで仕方がない。



岩谷祐之(いわたに・すけゆき)ノヴァイオリン奏者

- 1977年生まれ。4歳より天理音楽研究会弦楽教室にて東儀祐二、五十嵐由紀子の両氏に師事。
- 1999年 第68回日本音楽コンクールヴァイオリン部門第1位入賞。松下賞、レウカディア賞、鷺見賞を受賞。
- 2001年 フランスへ留学。パリコンセルバトワールでボリス・ギャリツキー氏に師事。
- 2003年 ラジオフランスフィルハーモニックオーケストラにて第2ヴァイオリン首席奏者を務める。
- 2005年 兵庫芸術文化センター管弦楽団に入団。
- 2008年1月 関西フィルハーモニー管弦楽団コンサートマスターに就任。

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社は、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールをフェニックスタワー内に設けています。芸術・文化の発信基地として、関西の芸術文化発展に寄与しています。

〒530-0047 大阪市北区西天満4-15-10 あいおいニッセイ同和損保フェニックスタワー5F TEL 06-6363-0211

Copyright(C) 2011 The Phoenix Hall All rights reserved. 本誌に掲載された記事、写真、イラスト等の無断掲載を禁じます。

発行年月 2014年11月
発行 あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール
編集 吉元 晃
デザイン 松井桂三有限公司

